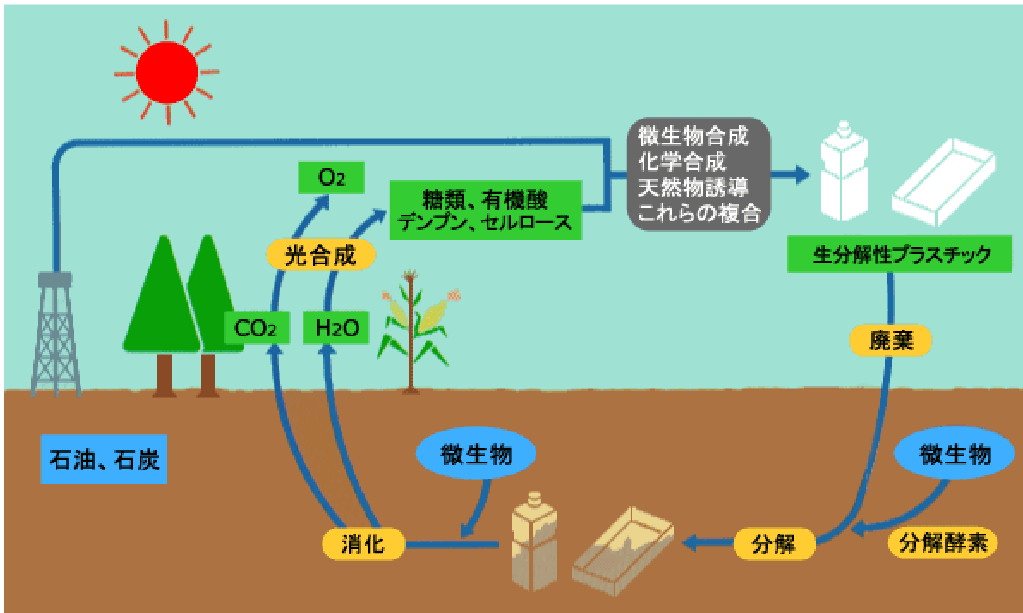


# 生分解性プラスチックとは



- 自然界の微生物によって、最終的には水と二酸化炭素に分解されます。
- 生ゴミから有機肥料（たい肥）を造る装置（コンポスト化装置）の中に投入した場合には、早く分解します。なお、有機肥料（たい肥）の質には影響を与えません。
- 焼却した場合にも熱量が低いため焼却炉を傷つけることがなく、クリーンで大気を汚しません。
- 自然環境の中で使用される製品や、使用後のリサイクルが難しい分野に用いられることが期待されています。



## 種類：

- 微生物系      バイオポリエステル（PHB/V など）、バクテリアセルロース、微生物多糖（プルラン、カードランなど）
- 化学合成系    脂肪族ポリエステル、ポリビニルアルコール、ポリアミノ酸類（PMLG など）
- 天然物系      キトサン／セルロース、澱粉など

## 用途：

- 環境中で利用される分野  
農林水産業用資材、土木・建設資材、荒地・砂漠の緑化用、レジャー用
- 使用後の回収・再利用が困難な分野  
食品包装用フィルム・容器、紙オムツ、生理用品など、
- 特殊な機能を生かした分野  
医薬品、農薬、肥料などの被覆材、保水性・吸水性、生体内分解吸収性